

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪特別の教科 道徳(道徳)≫

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	東書	書名	新訂 新しい道徳3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各内容項目に関連した道徳的諸価値に関する発問が、教材末に『考えよう』として設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、役割演技などをおして、人と関わることで多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止の視点から、複数の教材に関連付けた、いじめ・人権について学ぶユニット『いじめのない世界へ』が各学年に設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報モラルと友情の問題を扱った『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『働くってどんなこと?』や社会参画に関する教材『本が泣いています』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、冒頭に、学ぶ内容項目に関連した学びの観点が示されている。また、各単元末に主題に関する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、各教科と関連した教材として、例えば、技術・家庭科と関連した『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、巻頭の『話し合いの手引き』では、話し合いの進め方が示されている。また、巻末には意見発表の方法の1例としてホワイトボードが設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『古都の雅、葉子の心』、『島唄の心を伝えたい』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、役割演技など、学習した内容項目に関わる活動内容が『ACTION!』に示されている。『席替え』では役割演技をもとに考えを話し合う活動が設けられている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の『私たちの道徳』に掲載されている教材などが配置されている。高等学校との関連について、職業や将来に関する教材が配置されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、SNSによるいじめ問題など、現代的な情報モラルを扱う教材が配置されている。投稿サイトへの友人の悪口に関する教材などが取り上げられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、吹き出しで、活動のポイントを示している『考えたいグー』というキャラクターが設けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『1年間で学ぶこと』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関わる観点ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、考えたり、思ったりしたことを記述する欄『つぶやき』が、各教材の下部に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、議論をおして多面的・多角的な考え方にふれる教材『傍観者でいいのか』や、『ACTION!』などのコーナーに議論の場が設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、『もし、あの日にもどれるならば』など、役割演技をしたり、話し合ったりする、体験的な学習を取り上げる『ACTION!』が設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、28の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	教出	書名	中学道徳3 とびだそう未来へ
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、教材名の下に、道徳的諸価値につながる発問が示されている。『道徳の学びを記録しよう』に教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、体験的な学習をとおして、多面的・多角的な考え方に触れる『やってみよう』のコーナーが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、これから学びたいこと、がんばりたいことを記述する欄が巻頭に、『道徳の学びを振り返ろう』が巻末にそれぞれ設けられている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、いじめの問題についての教材では、関連する教材でユニットが生まれ、3年間をとおして、継続して学習する設定がなされている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『ルールとマナー』や『自分で決める』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『「どうせ無理」をなくしたい』や社会参画に関する教材『選ぶということ』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、主題名の下に、導入の発問が示されている。教材末『学びの道しるべ』のコーナーに、話し合いの流れや、視点を変える発問が示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、行事との関連が図られた教材『三年生を送る会』などが配置されている。社会科(歴史的分野)と関連した『六千人の命のビザ』が配置されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『道徳科で学びを深めるために』では、話し合いの手引きが示されている。教材末に考えを整理し、話し合い、交流する『学びの道しるべ』が設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『“庶民の笑い”を絶やさない～落語家・桂米朝さんの生涯～』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『裏庭でのできごと』など、教材に関連した役割演技をとおして、自分の考えを振り返り、話し合うコーナー『やってみよう』が教材末に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、入学当初は、ひらがなで書かれた詩や、漫画などが用いられている。高等学校との関連について、キャリア教育・社会参画を扱った教材が配置されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年に情報モラルに関する教材などが設定されている。SNSによる生活の乱れや、個人情報の取り扱いなど、身近な問題に関する教材が設けられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、基本的に右ページ始まりで教材が配置されている。キャラクターの吹き出しなど、文章は基本的に文節の区切りで改行されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『道徳の学びを記録しよう』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『学びの道しるべ』には立場を置き換え、視点を変えて考えさせる発問が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、オリエンテーション『道徳科で学びを深めるために』では、考えを出し、話し合う中で、議論を深めていく発問や、授業の流れが示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、登場人物等の立場になって考えたり、役割演技をしたりするコーナー『やってみよう』が各学年に設けられている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	光村	書名	中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、教材名のとらに、関連する内容項目が示されている。主題に関する発問が、各教材末の『考えよう』に示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、別の視点から振り返る『見方を変えて』や『つなげよう』のコーナーが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻末に、学びに向かう自分の思いや、学んだことを記録する、『学びの記録』がシーズンごとに設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『魚の涙』や『三年目の「ごめんね」』など、いじめの問題を扱った教材に関連した『深めたいむ』のコーナーが、各学年に設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『私の話を聞いてね』や『言葉の向こうに』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私の働く理由』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、めあてや発問が示されている『考えよう』のコーナーが教材末に設けられている。『深めたいむ』では教材と関連した活動的な学習が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、発達の段階に応じて、1年間を3シーズンに分けた学習計画が示されている。社会科と関連した『日本のお米』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『広げよう 人と人との関係づくり』では、ペア活動やアンガーマネジメントなど、相互理解に向けた話し合い活動の例が示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、郷土の伝統や文化を守ることの大切さにふれた『なのおしもん』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、各学年、教材中の発問のあとに設定されている、『見方を変えて』や、『深めたいむ』のコーナーで、役割演技や鑑賞のポイントが示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の『私たちの道徳』から教材が配置されている。高等学校との関連について、複数教材からなるユニット『新しい進路へはばたく』が設けられている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報モラルに関する、SNSによるトラブルや、スマートフォンを持っていない友人との付き合い方など、『相互理解・寛容』などに関連した教材が配置されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、冒頭に、学習指導要領の各視点の印が色別に異なる絵柄で表示されている。また、『考えよう』など、項目ごとにイラストが用いられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『道徳の授業を始めよう!』のコーナーに、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、各内容項目に関する発問が分類された表が示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』で学んだ内容を、視点や立場を変えて振り返る発問が、『見方を変えて』『つなげよう』というコーナーに設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』の下に他者の視点に立つコーナー『見方を変えて』や、以前の学習と関連付けて考える『つなげよう』が配置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、生徒が役割演技をすることで、別の視点から教材を振り返る『見方を変えて』が、各学年の『考えよう』のコーナーの中で取り上げられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、31の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『教科書本文等には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	日文	書名	中学道徳 あすを生きる 3 中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した主題が教材名の上に示されている。主題に関する発問が、各教材末『考えてみよう』『自分に+1』に示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容が他教科や活動とつなげて示された『プラットホーム』のコーナーが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『考えてみよう』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、振り返ったりする別冊『道徳ノート』が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、集団生活を複数の教材から考えるユニット『いじめと向き合う』や、役割演技を行い「いじめ」について考える『プラットホーム』が設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『近くにいた友』や『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、問題解決的な学習に関する教材『あったほうがいい?』などが設けられ、続けて学習活動の例を示した『学習の進め方』のコーナーが配置されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科や活動とつなげる『プラットホーム』のコーナーが設けられている。国語科と関連した『トマトとメロン』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、別冊『道徳ノート』に自分と他者の考えを記述する欄が設けられている。『学習の進め方』では、話し合いの進め方が写真や、イラストを用いて示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、地域に生きる人の姿や、文化、伝統への心や思いにふれた『奈良筆に生きる』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『学習の進め方』のコーナーに、役割演技をとおして考える発問、体験学習の進め方、深めるヒント、活動例の写真などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年で、中学校生活への希望を感じさせる詩が設けられ、第3学年で選挙に関する教材など、高等学校での学習内容につながる教材が設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての教材が扱われている。『プラットホーム』というコーナーでは、SNSの長所・短所・注意点などが取り上げられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各学年で、教材名の下に主な登場人物の写真やイラストが配置されている。学習の進め方では、活動の様子が写真を用いて紹介されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『内容項目別教材一覧』に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、『学習の進め方』や『学習を深めるヒント』が設けられている。また、自分との関わりの中で、振り返る『自分に+1』などが設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、議論を行う際に、友達の意見や話し合いの内容をメモする欄が別冊『道徳ノート』に設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、活動例の写真を提示し、生徒の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示している学習教材が、『学習の進め方』に設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	学研	書名	新・中学生の道徳 明日への扉 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① □ 「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した発問が各教材末『考えよう』に示されている。巻末に教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、視点や学習内容の違う関連情報を取り扱った、『クローズアップ+プラス』などのコーナーが設定されている。</p> <p>③ □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返るページ『マイプロフィール』が巻頭に、『心の四季』『学びの記録』が巻末に設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ □ [思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止に関連した教材『卒業文集最後の二行』などが配置されている。「生命尊重」などを取り上げた、『クローズアップ+プラス』が配置されている。</p> <p>⑤ □ [たくましく生きる力]の「情報化」について、『日曜日の朝に』、『アップロード ダウンロード』など、SNSやスマートフォンの使い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ □ [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『掃除の神様が教えてくれたこと』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ □ 主体的・対話的で深い学びについて、生徒自らが問いを見つけ、考え、話し合ったことを自分の生き方につなげるという、学習の流れが『考えを深める4つのステップ』として示されている。</p> <p>⑧ □ カリキュラム・マネジメントについて、他教科と関連した複数の教材でユニットが組まれている。保健体育科と関連した『真の国際人 嘉納治五郎』などが設けられている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ □ 言語能力の育成について、考えを端的に記述し、立場や根拠をもって議論したり、話し合いの中で学んだことを記録したりする特設ページ『深めよう』が各学年に設定されている。</p> <p>⑩ □ 伝統や文化に関する教育の充実について、日本文化や伝統文化を伝承することの意義について取り上げた『日本の心と技』など、伝統的な文化に関する教材が設けられている。</p> <p>⑪ □ 体験活動の充実について、各学年に、道徳的行為に関する体験的な活動が設けられている『クローズアップ+プラス』や、役割演技などが取り上げられている『深めよう』が配置されている。</p> <p>⑫ □ 学校段階間の円滑な接続について、入学当初にオリエンテーションのページが設けられている。第3学年では選挙に関する教材など、高等学校での学習内容につながる教材が設定されている。</p> <p>⑬ □ 情報活用能力の育成について、『ネットがないと生きていけない?』など、各学年で情報モラルなどに関した内容が取り上げられている。</p> <p>⑭ □ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、図表や挿し絵、写真が本文と関連して配置されている。学習指導要領の各視点の印が色別に異なるマークで表示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ □ 巻末に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ □ 「考える道徳」につながる内容構成について、自分との関わりの中で振り返る『深めよう』のコーナーが設けられている。</p> <p>⑰ □ 「議論する道徳」につながる内容構成について、別の視点から、自分の考えを振り返る『クローズアップ』が設けられている。教材末『深めよう』では、『話し合おう』が設定されている。</p> <p>⑱ □ 道徳的行為に関する体験的な学習について、問題解決的な学習『二つの心の対話を演じてみよう』などが『深めよう』に設けられている。役割演技をする『やってみよう』が設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ □ 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ □ 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ □ 『この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、ユニバーサルデザインに配慮して製作しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	廣あかつき	書名	中学生の道徳 自分をのぼす3 中学生の道徳ノート 自分をのぼす3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、道徳的諸価値に関する発問が『学習の手がかり』、『考えを広げる・深める』に示されている。巻末の内容一覧に、教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、今の自分の視点で振り返る発問などが、『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、毎時間の学習の記録を記述するコーナーや、自分の考えを振り返るコーナーが、別冊『中学生の道徳ノート』に設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「人権教育」について、『ヨシト』など、いじめに関する教材が配置されている。また、『いじめを許さない 私たちの心』のコーナーが各学年の巻末に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「情報化」について、『ネット将棋』、『情報社会をいきていくために』など、情報モラルに関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『午前一時四十分』や社会参画に関する教材『加山さんの願い』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、問題の全体像をつかむ『学習の手がかり』が教材末に設定されている。他者と考えを交流する発問や活動が『考えを広げる・深める』に示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科・領域等との関わりが『内容一覧』に示されている。理科と関連した『あのハチドリのように』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、教材ごとに考えを書き込む欄や、年間の学習を通して学んだことを自由に記述する欄が設けられた別冊『中学生の道徳ノート』が用意されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、和太鼓を例に取り上げた『音を宿す』や、『相馬野馬追の季節』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『考える・話し合う』において、登場人物になり役割演技をしたり、具体的な場面を追体験したりすることで、見方や考え方の違いに気づく活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、道徳科の時間で学ぶことが説明されている。高等学校との関連について、将来の自分について考える『二度とない人生だから』などが設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての内容が扱われている。インターネット上でのマナーやSNSにコメントしたことによるトラブルに関する教材が設けられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点の印が色別に表示されている。教材の内容に関連した1ページのフルカラー写真などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻末に、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関する教材ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、課題解決に関して『考える・話し合う』が設定されている。『thinking』のコーナーには前の教材に関連した実話や詩が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、議論につながる発問が、『考えを広げる・深める』に設けられている。議論した内容を広げるコーナー『thinking』が設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、体験的な学習をとおして、道徳的価値についての考えを振り返る、役割演技や動作化などの活動が、教材末『考える・話し合う』に設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	日科	書名	道徳 中学3 生き方を創造する
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、主題に関する発問が、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』に設定されている。巻末に教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、話し合いをとおり、多面的・多角的な考え方に触れる発問などが、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』に示されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、1年間の心の成長と、1年間の道徳科の時間を振り返るそれぞれのページをとおり、道徳科で学びたいことを記述するコーナーが設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『プロレスごっこ』や『コンスタンチン君 命のリレー』など、いじめ防止や生命尊重に関する教材が配置されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『グループ』、『もっと知りたい SNSで広がったボランティア活動』など、SNSやスマートフォンの使い方に関する教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『仕事と心』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』では、教材の主題に関する問いが示されている。また、巻末に振り返りをするページが設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、学習指導要領の内容項目の順で教材が配列されている。理科と関連した『ニッポニア・ニッポン』という教材などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『二つの足跡』では、話し合い活動の例が示されている。『ニュースで討論「支え合いは当たり前」』では、討論の仕方の例が示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、地域に尽くした先人の心や考えなどにふれる『銅像が教えてくれたこと』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、教材末『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』において、役割演技をとおり考えたことを話し合うことで、自己の考えを振り返る活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、入学当初、『今日からはじまる』という詩が掲載されている。高等学校との関連について、社会参画やキャリア教育に関する教材が設けられている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関する教材が取り扱われている。SNSのよさについて考える『もっと知りたい』が教材の後に設けられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点の印が色別に表示されている。各学年で、本文の難解な部分を補助する脚注が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『学習指導要領対応表』に、各教材を道徳科で学習する4つの視点と、各内容項目の内容ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、生徒の日常生活の中で答えが1つではない道徳的な課題を、自分自身の問題として3年間をとおり学ぶ教材『リョウとマキ』が配置されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末に、意見交換をすることで、多様な価値観と出会う『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』のコーナーが設置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、教材に関係のある日常生活での体験をとおり、自らの考えを振り返る『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』が教材末に設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、37の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 編修趣意書には、『生徒が学びやすく、先生が教えやすい紙面を目指して編集を行いました。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、『考えよう』として教材末に内容項目に関連した道徳的諸価値を理解する主発問を示している。また、自分のこととして考えられる『自分を見つめよう』が設定されている。
教出	「知識・技能」の習得について、学習のねらいを示すことで見通しをもって授業に取り組めるよう、教材冒頭に道徳的諸価値につながる発問を設けている。また、『道徳の学びを記録しよう』のコーナーに教材と関連する内容項目が示されている。
光村	「知識・技能」の習得について、教材名のとなりに、関連する内容項目が示されている。教材を通して何を学ぶのか、主題に関する発問が、各教材末の『考えよう』に示されている。また、1年間を『自ら考えて』『広い視野で』『共に学び合いながら』という3つのシーズンに分けてテーマが設定されている。
日文	「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した主題が教材名の上に示されている。ねらいに迫る発問の例が、『考えてみよう』、『自分に+1』として教材末に設けられている。また、『プラットフォーム』では学習内容が他教科や活動とつなげて示されている。
学研	「知識・技能」の習得について、教材から学んだことを、今後の自分に関連付ける発問が、各教材末『考えよう』に示されている。巻頭に道徳の授業への向き合い方として、『考えを深める四つのステップ』を明示している。
廣あかつき	「知識・技能」の習得について、道徳的諸価値に関する発問が『学習の手がかり』や、『考えを広げる・深める』に示されている。巻末に内容一覧に、教材と関連する内容項目が示されている。また、『thinking』という理解を助ける補助資料のページが設けられている。
日科	「知識・技能」の習得について、教材末に考えたり、話し合ったりする視点や、主題に関する発問が記載されている、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』が設定されている。また、巻頭『道徳科って何を学ぶの?』に、道徳科を学ぶ意義などが示されている。巻末『学習指導要領対応表』に教材と関連する内容項目が示されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、役割演技など、人と関わることをとおして、多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。また、人と関わることをとおして、様々な考えに触れる活動型の教材が設定されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、体験的な学習をとおして、複数の人物の多面的・多角的な考え方に触れる教材『不自然な独り言』、『裏庭での出来事』などが『やってみよう』のコーナーに設けられている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだあとに、別の人物の視点から振り返る『見方を変えて』や『つなげよう』のコーナーが設定されている。また、1年間の学びを振り返る『道徳の学びを振り返ろう』が巻末に設けられている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げる『君の心を打つ言葉』などが『プラットフォーム』のコーナーに配置されている。また、教材末に、自らの考え方をより深く考える『考えてみよう』『自分に+1』が設けられている。
学研	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、視点や学習内容の違う関連情報を取り扱った、『クローズアップ』『クローズアッププラス』などのコーナーが設定されている。また、教材の終わりに、生徒全員が同じテーマで思考する『考えよう』が設定されている。
廣あかつき	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、今の自分の視点から振り返ったり、考えたりする発問が、教材末『学習の手がかり』の中に配置された『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。
日科	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、話し合うことをとおして、複数の人物の多面的・多角的な考え方に触れ、自分自身の考えを見つめる、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』のコーナーが教材末に設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。また、自己を見つめ自己の学びを振り返る『1年間で学ぶこと』のページや、自由に思いを書き込む『つづやき』をはじめ、その時の自分の考えを記述したり、振り返りをしたりするページが設定されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返り、これから学びたいこと、がんばりたいことを記述する欄が巻頭に配置されている。巻末には『道徳の学びを記録しよう』や『これからを生きる皆さんへ』、『道徳の学びを振り返ろう』が設けられている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻末に、学んでいくにあたっての自分の思いや、毎時間後に記録した学習内容を記述し、学期ごとに振り返り、自分の成長を確かめるコーナー『学びの記録』がシーズンごとに設定されている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『道徳科での学び方』で学習過程が示されている。また、『考えてみよう』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、考えを振り返ったりする別冊『道徳ノート』が設定されている。
学研	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の自己を見つめる『マイプロフィール』、巻末の心の成長を振り返る『心の四季』『学びの記録』において各学期の振り返りができる構成になっている。また、巻末には学期ごとの学習のまとめが設定されている。
廣あかつき	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返るコーナーや、毎時間の学習の記録や、心に残っている授業の記録を記述するコーナーが、別冊『中学生の道徳ノート』に設定されている。
日科	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、1年間の心の成長を振り返るページと、1年間の道徳科の時間を振り返るページをとおして、道徳科で学びたいことを記述するコーナーが設けられている。教材の後の『込められた想い』『もっと知りたい』などで、自分ができることについて考えるコーナーが設けられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止の視点から、第1学年『傍観者でいいのか』など、各学年に、複数の教材を関連付けて、いじめ・人権について学ぶユニット『いじめのない世界へ』が設定されている。また、各学年に、人間としての生き方を深く考える、ユニット『いのちを考える』が設定されている。
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、いじめや差別について考える教材には、目次において各ページにマークが付けられている。また、いじめの内容について関連した教材でユニットを組むことで、3年間をとおして継続して学習する設定がなされている。
光村	[思いやる力]の「人権教育」について、『魚の涙』や『三年目の「ごめんね」』など、いじめの問題を扱った教材に関連した『深めたいむ』が設けられている。学級づくりや人間関係づくりについて、いじめ問題の解決に結びつく教材が学年の前半に配置されている。
日文	[思いやる力]の「人権教育」について、『いじめと向き合う』では複数の教材から他者を尊重した集団生活について考えるユニットが各学年で設定されている。また、「いじめ」を重点テーマとして役割演技をする『プラットホーム』が設定されている。
学研	[思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止に関連した『卒業文集最後の二行』などの教材が配置されている。「生命尊重」などを取り上げた、『クローズアップ』が配置されている。また、いじめや命をテーマとした『クローズアップ+プラス』や、自己肯定感について考えさせる『あなたへ質問』が設定されている。
廣あかつき	[思いやる力]の「人権教育」について、『ヨシト』や『卒業文集最後の二行』など、いじめについて取り扱った教材が配置されている。道徳科の時間に考えた『人間としての在り方や生き方』を振り返り、いじめについて考えさせる『いじめを許さない 私たちの心』という教材が、巻末に掲載されている。
日科	[思いやる力]の「人権教育」について、『プロレスごっこ』、『いつかは言いたい二度目のごめん』や『コンスタンチン君 命のリレー』など、いじめ防止や生命尊重に関する教材が配置されている。また、国境や文化を越えて道徳的価値を形成する教材が配置されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「情報化」について、情報モラルと友情の問題を扱った第1学年『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』や、第3学年『スマホに夢中!』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。
教出	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『ルールとマナー』や第2学年『SNSについて考えよう』、第3学年『歩きスマホをどうするか』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。
光村	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『私の話を聞いてね』や『言葉の向こうに』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。『情報モラル』のテーマで複数教材からなるユニットが組まれている。
日文	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『近くにいた友』『違いを意識したコミュニケーション』や第2学年『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材や、情報の正しい活用方法について考えられるコラムが設定されている。
学研	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『日曜日の朝に』、第2学年『つい言い過ぎて』、第3学年『アップロード ダウンロード』など、SNSやスマートフォンの使い方に関するトラブル、課題を取り上げた教材や、『クローズアップ』『ネットがないと生きていけない?』などのコーナーが配置されている。
廣あかつき	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『ネット将棋』、第3学年『情報社会をいきていくために』など、情報モラルに関する問題を取り上げた教材が設定されている。また、年代の近い主人公や筆者の教材が設定されている。
日科	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『グループ』、『もっと知りたい SNSで広がったボランティア活動』、第2学年『ネット将棋』など、SNSやスマートフォンの使い方に関する課題を扱った教材が配置されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『働くってどんなこと?』や社会参画に関する教材『本が泣いています』が掲載されている。「生きること」に関して、『桂歌丸 生涯・落語』や『ぼくの使命 野村萬斎』などの著名人の経験などが紹介されるコーナー『PLUS+』が設けられている。
教出	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『「どうせ無理」をなくしたい』や社会参画に関する教材『選ぶということ』が掲載されている。「生きること」について、竹下佳江など、身近な先人の生き方から学ぶ教材が掲載されている。
光村	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私の働く理由』が掲載されている。「生きること」について、環境教育など現代的な課題について取り上げたコラム『広げよう』のコーナーが設けられている。
日文	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。「生きること」について、環境問題、安全教育など、現代的社会的な課題を考えられる教材が設けられている。
学研	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『掃除の神様が教えてくれたこと』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、ユニット学習として『夢に向かって共に輝く』『地球と地域の未来のために』などが設定されている。
廣あかつき	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『午前一時四十分』や社会参画に関する教材『加山さんの願い』が掲載されている。「生きること」について、巻末に、現代社会の諸問題や現状を紹介する、第1学年『よりよい未来をつくるために』などのコーナーが設定されている。
日科	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『仕事と心』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、家族の一員としての自覚に関する、第1学年『形見』などの教材が設定されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、教材の冒頭には、学ぶ内容項目に関連した学びの観点が示されている。また、教材末に主題に関する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。第1学年『楽寿号に乗って』では、冒頭の『ボランティア活動に参加して』とテーマが示されている。また、各単元末にテーマに対する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、主題名の下に、導入の発問が示されている。教材末『学びの道しるべ』のコーナーに、話し合いの流れや、視点を変える発問が示されている。また、巻頭に『学びを深めるために』、巻末に『学びの振り返り』のページが配置されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、全学年において教材末に『考えよう』が設けられ、めあてと発問が示されている。また、各学年の『深めたいむ』のコーナーでは読み物教材と関連した活動的な学習や話し合い活動が設定されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、第1学年『あったほうがいい?』、第2学年『「自分」ってなんだろう』など、問題解決的な学習に関する教材のあとに、問題解決に向けた活動の例を示した『学習の進め方』のコーナーが設けられている。
学研	主体的・対話的で深い学びについて、各学年の始めに、生徒自らが問を見つけ、考え、話し合ったことを、自分の生き方につなげる学びの流れが、『考えを深める4つのステップ』として示されている。また、各学年に『道徳で学ぶこと・考えること』が設定されている。
廣あかつき	主体的・対話的で深い学びについて、何を考えるのか、全体像をつかむことで主体的に学ぶ見通しをもつ『学習の手がかり』が教材ごとに設けられている。また、『考えを広げる・深める』では、他者と考えを交流する発問や活動が示されている。
日科	主体的・対話的で深い学びについて、巻頭で1年間の流れと教科書の使い方を提示し、巻末には振り返りをするページが設けられている。単元末『考え、話し合ってみよう』そして、深めよう』に作品に関連した発展的な問いが設定されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、各教科と関連した教材はページの右下にマークと教科名で示されている。第1学年では、技術・家庭科と関連した『短文投稿サイトに友達の悪口を書く』という教材が設定されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、『三年生を送る会』や『旅立ちの日に』など、学校生活や行事との関連が図られた教材が設定されている。第2学年では、社会科(歴史的分野)と関連した『六千人の命のビザ』という教材が設定されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、発達段階に応じて、1年間を3シーズンに分けた年間の学習計画が示されている。社会科と関連した教材として第1学年では『日本のお米』、第3学年では『一票を投じることの意味』という教材が設定されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、学習内容を他教科や活動とつなげる『プラットフォーム』のコーナーが配置され、『地球で分かち合う、幸せな未来』、『環境保全と持続可能な社会』などが取り上げられている。第1学年では、国語科と関連した『トマトとメロン』という書写や詩に関する教材が設けられている。
学研	カリキュラム・マネジメントについて、理科に関連した教材からなる『地球と地域の未来のために』など、他教科と関連した複数の教材からなるユニット学習が設定されている。第1学年では、保健体育科と関連した教材『真の国際人 嘉納治五郎』などが設けられている。
廣あかつき	カリキュラム・マネジメントについて、他教科・領域・現代的な課題等との関わりが、『内容一覧』に示されている。第1学年、理科と関連した教材『あのハチドリのように』、第2学年では、総合的な学習の時間と関連した『加奈子の職場体験』などが設定されている。
日科	カリキュラム・マネジメントについて、学習指導要領の内容項目の順で教材が配列されている。理科と関連した第1学年『ニッポニア・ニッポン』という教材などが設定されている。第2学年では、音楽科と関連した『パートリーダー』という教材が設定されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、巻頭の『話し合いの手引き』では、話し合いの進め方が示されている。また、巻末には意見発表の方法の1つの例としてホワイトボード用のペンで記入するページが設けられている。第1学年のコラム『PLUS+探究の対話「p4c」』では、ルールに沿った対話の仕方の例として『p4c』という手法が示されている。
教出	言語能力の育成について、全学年の巻頭の『道徳科の学びを深めるために』では、学習の進め方や話し合い活動の手引きが示されている。教材末では、自分の考えを整理し、話し合い、考えを交流する『学びの道しるべ』が設けられている。第1学年の『ルールとマナー』では、考えを記入し、話し合いに結びつけていく方法が示されている。
光村	言語能力の育成について、『広げよう 人と人との関係づくり』では、話し合い活動の手引きが示されている。ペア活動やアンガーマネジメントなど、相互理解に向けた話し合い活動が示されている。また、生徒が意見を出す『考えよう』が、すべての教材に設定されている。第1学年の『深めたいむ』では、グループでの話し合い活動が示されている。
日文	言語能力の育成について、全学年で自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられ、それらを対比させながら学習する別冊『道徳ノート』に、自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられている。『学習の進め方』では、話し合いの進め方が写真や、イラストを用いて、考え、議論する話し合い活動が示されている。
学研	言語能力の育成について、考えを端的に記述したり、根拠をもって議論したり、話し合いの中で学んだことを記録したりする特設ページ『深めよう』が各学年に掲載されている。第1学年の『裏庭での出来事』では、『深めよう』において今後の生き方につながる話し合い活動の例が示されている。
廣あかつき	言語能力の育成について、自己を見つめる考えを自由に記述し、教材ごとに考えを書き込む欄や年間の学習を通して学んだことを書く欄を設けた『中学生の道徳ノート』が用意されている。各教材末『考えを広げる・深める』では多面的・多角的に考えながら話し合う活動例や発問例が示されている。
日科	言語能力の育成について、第1学年『二つの足跡』では、話し合い活動の例が示されている。第2学年『ニュースで討論「支え合いは当たり前」』では、討論の仕方の例が示されている。各学年、自らの考えをもとに議論するページが用意されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年、『古都の雅、菓子司の心』では、菓子司の仕事を通して、日本の伝統や文化として守り伝えていかなければならないものを取り上げられている。第3学年『島唄の心を伝えたい』など、伝統的な文化を形成する様々な心に関する教材が各学年で取り上げられている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化の継承や発展を通して、国や地域の文化に関する教材が掲載されている。第1学年では『“庶民の笑い”を絶やさない～落語家・桂米朝さんの生涯～』という教材で、伝統文化の一つとして落語が、第3学年『日本の伝統文化将棋』では、伝統文化の一つとして将棋が取り上げられている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化の継承や発展を通して、国や地域の文化についての教材が掲載されている。第1学年『なおしもん』では、郷土の伝統や文化を守る大切さ、継承してきた職人達への思いが取り上げられている。第2学年『一枚の布から』では、伝統を受け継ぐことについての発問が設けられている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、地域に生きる人の姿や、文化、伝統への心や思いにふれて、新たな文化の創造と発展を考える教材が設定されている。第1学年『奈良筆に生きる』では、伝統や文化を継承していく際に必要なことが取り上げられている。第3学年『父は能楽師』では、文化や芸能を受け継ぐことについて考えさせる発問が設けられている。
学研	伝統や文化に関する教育の充実について、『日本の心と技』など、国の文化の尊重について取り上げた教材が設定されている。第1学年では、『日本の心と技』で、日本文化の魅力と伝統文化を伝承することの意義が取り上げられている。第2学年『金閣再建 黄金天井に挑む』では、日本の文化や伝統を受け継いでいくことについての発問が設けられている。
廣あかつき	伝統や文化に関する教育の充実について、和太鼓を例に取り上げた『音を宿す』など、『国の文化の尊重』に関することを取り扱った教材が設定されている。第1学年では、狂言や琵琶、落語など日本の伝統文化と外国との関わりなどが取り上げられている。第2学年『相馬野馬追の季節』では、伝統文化を尊重する態度や、郷土について考える発問が設けられている。
日科	伝統や文化に関する教育の充実について、地域に尽くした先人の心や考えなどにふれる『銅像が教えてくれたこと』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。第1学年『銅像が教えてくれたこと』では、郷土の伝統文化を学び、地域に尽力した人への尊敬と感謝の気持ちが取り上げられている。第2学年『「道」の文化』では、『柔道』『茶道』の世界を通して、日本の作法を理解することが取り上げられている。

⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、役割演技をすることで、学習した内容項目に関わる体験活動として、『ACTION!』というコーナーが設定されている。第1学年、読み物教材『席替え』では、役割演技をもとに考えを話し合う活動『くじ引きの後の場面をやってみよう』が取り上げられている。
教出	体験活動の充実について、『裏庭のでできごと』など、読み物教材に関連した役割演技をとおして、自分を見つめ、振り返ることができる問いが設定されている。第1学年『不自然な独り言』の『やってみよう』では、ペアの役割演技が取り上げられている。
光村	体験活動の充実について、各学年、教材中の発問のあとに設定されている、『見方を変えて』や、『深めたいむ』のコーナーで、学びを深める演技や鑑賞のポイントが記されている。第1学年『父の言葉』では、役割演技が取り上げられている。
日文	体験活動の充実について、『学習の進め方』に、役割演技をとおして考える発問、体験学習の進め方、深めるヒント、活動例の写真など、考えを深める視点が掲載されている。第1学年『近くにいた友』では、役割演技が取り上げられている。
学研	体験活動の充実について、各学年に、道徳的行為に関する体験的な活動ができる『クローズアップ+プラス』や『深めよう』のページが、掲載されている。第1学年『釣りざおの思い出』では2つの心が対話をする、という形式での役割演技が取り上げられている。
廣あかつき	体験活動の充実について、『考える・話し合う』において、読み物の登場人物になり役割演技をしたり、具体的な場面を体験したりすることで、見方や考え方の違いに気づく体験活動が設定されている。第1学年では、場面の中の複数の登場人物の立場に立って考える教材が取り上げられている。
日科	体験活動の充実について、教材末『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』において、役割演技をとおして考えたことを話し合うことで、自己の考えを振り返る活動が設定されている。第2学年では、グループでの体験活動が示されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、小学校の『私たちの道徳』に掲載されている教材などが配置されている。第1学年では、小学校道徳科の教材である『橋の上のおおかみ』という教材が取り上げられている。職業や将来について題材にしている教材を掲載することで、高等学校との関連が図られている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、入学当初は、ひらがなで書かれた詩や、イラストや漫画などを用いるなど、小学校道徳科との接続を円滑にする手立てが施されている。第2・3学年では、キャリア教育・社会参画を扱う教材を配置し、高等学校との接続を図る手立てが施されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、『私たちの道徳』（小学校）に掲載されている教材などを配置することで、小学校との関連が図られている。第1学年では、小学校道徳科の教材である『橋の上のおおかみ』という教材が取り上げられている。第3学年の最後の『シーズン』には、『新しい進路』という複数の内容項目を扱うユニットで高等学校との関連が図られている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、巻頭に中学校生活への希望を感じさせる詩が掲載され、第3学年では選挙に関する教材、『自分、相手、周りの人』や『サトシの一票』など、高等学校での学習内容につながる教材が設けられている。
学研	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、オリエンテーションのページに小学校の学習内容からの変化の確認が示されている。第3学年では選挙に関する題材など、高等学校での学習内容につながる教材が設定されている。また、『未来への扉』に高等学校の学習内容への接続に対する心構えを記入するページが設けられている。
廣あかつき	学校段階間の円滑な接続について、第1学年の巻頭で、中学校生活のスタートにあたって、道徳科の時間で学ぶことが説明されている。高等学校との関連について、第3学年では、中学校生活を振り返り、将来の自分について考える『二度とない人生だから』などが設定されている。
日科	学校段階間の円滑な接続について、中学校生活への希望を感じさせる『今日からはじまる』という詩が巻頭に掲載されている。また、先哲・著名人の体験や夢を用いた教材が各学年に設定され、社会参画やキャリア教育など、高等学校との接続が図られている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、SNSによるいじめ問題など、現代的な情報モラルを扱う教材が配置されている。第1学年の『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』では悪口を投稿したことにより、友だち関係が悪化する「友情・信頼」等の内容が取り上げられている。第2学年『「いいね」のために』では、動画をアップする際のルールに関する発問が設けられている。
教出	情報活用能力の育成について、各学年に情報モラルに関する教材などが設定されている。SNSによる生活の乱れや、個人情報の取り扱いなど、身近な問題に関する教材で、「自主・自律・自由と責任」、「節度、節制」などの内容項目が取り扱われている。第1学年、『自分で決める』では、SNSによる生活の乱れや、個人情報の取り扱いなどに関する発問が設けられている。
光村	情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての教材が扱われている。SNSにコメントしたことによるトラブルや、スマートフォンを持っていない友人との付き合い方などを題材とし、「相互理解・寛容」、「遵法精神・公德心」等の内容項目が設けられている。
日文	情報活用能力の育成について、各学年で扱われている。SNS上のコミュニケーションは日常のコミュニケーションと何が違うのかなど、SNSの長所・短所・注意点などに関する『プラットフォーム』というコーナーが、教材のあとに設けられている。第1学年では画像を無断拝借することについての教材『使っても大丈夫』が設定されている。
学研	情報活用能力の育成について、『ネットがないと生きていけない?』など、各学年で情報モラルなどに関した内容が取り上げられており、関連情報により生き方の選択肢を増やす『クローズアップ』のコーナーや、意見や考えを記述する『深めよう』が教材の後に設けられている。第1学年ではSNSで悪口を言い合うことに関する教材『うわさで決めるの?』が設けられている。
廣あかつき	情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての内容が扱われている。インターネット上でのマナーやSNSにコメントしたことによるトラブルなどの教材が「自主、自立、自由と責任」「相互理解・寛容」等の内容で取り上げられている。第1学年の『言葉の向こうに』ではインターネットを活用してコメントをすることに関する問題が取り上げられている。
日科	情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関した教材が取り扱われている。SNS上のコミュニケーションの難しさが「公平・公正」等の内容項目で取り上げられている。SNSのよさについて、ボランティア活動の広がりから考える『もっと知りたい』のコーナーが教材の後に設けられている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各学年で共通した『考えタイガー』というキャラクターが、活動のポイントを示している。会話文や設問は、文節の区切りで改行されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教材は基本的に右ページ始まりで設定されている。導入や『学びの道しるべ』、キャラクターの吹き出しなど、文章は基本的に文節の区切りで改行されている。
光村	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教材の冒頭に、学習指導要領の各視点の印が、色別に区別しやすい4種類の異なるデザインで表示されている。また、『考えよう』など、様々な項目にイラストが用いられている。
日文	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各学年で、教材名の下に主な登場人物の欄が配置されている。また、『私の生き方』など、様々な項目にイラストが用いられている。学習の進め方では、活動の様子が写真を用いて紹介されている。
学研	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、図表や挿し絵、写真を本文と関係させて配置している。学習指導要領の各視点が、それぞれ異なる色やマークで表示されている。また、『クローズアップ』や、『深めよう』など、様々な項目にイラストが用いられている。
廣あかつき	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点の印が色別に表示されている。教材の内容に関連した1ページのフルカラー写真などが掲載されている。各学年で、行間を均一に保つなど読みやすさへの配慮がなされている。第1学年『ガジュマルの木』など、教材の内容に関連した1ページのフルカラー写真が掲載されている。
日科	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点が、異なる色や印で表示されている。第1学年『銀色のシャープペンシル』など、各学年で本文の難解な語句を補助する脚注が記載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	『1年間で学ぶこと』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関わる観点ごとに分類した表が配置されている。その時間に学ぶことについて、教材の冒頭に、学ぶ内容項目に関連したテーマや投げかけが示されている。
教出	『道徳の学びを記録しよう』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関わる観点ごとに分類した表が配置されている。教材の冒頭に学習のねらいを明確にする問いが設けられている。また、教材の終わりに学習の流れが例示されている『学びの道しるべ』が設けられている。
光村	『道徳の授業を始めよう！』のコーナーに、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、各内容項目に関する発問が分類された表が示されている。巻頭の『二十二のキーワード』に、各内容項目のキーワードが示されている。各内容項目が学校生活に関連付けられ、シーズンごとのユニットとして分類、整理されている。
日文	『内容項目別教材一覧』に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。主題名が、冒頭、教材名の上に配置されている。また、この教科書で学ぶテーマが、いくつかの内容項目ごとに分類されている。
学研	巻末に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。巻頭の『よりよく生きるための22の鍵』に、各内容項目のキーワードが示されている。教材で学んだことと類似した内容のものを、別の視点から考える『クローズアップ』が設定されている。
廣あかつき	巻末に、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関する教材ごとに分類した表が配置されている。各教材の終わりに、めあてや問い『学習の手がかり』や、『考える・話し合う』が設定されている。
日科	『学習指導要領対応表』に、各教材を道徳科で学習する4つの視点と、各内容項目の内容ごとに分類した表が配置されている。各内容項目順に教材が配置されている。学習の流れを提示した『道徳科って何を学ぶの？』が巻頭に設定されている。
⑯ 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	
東書	「考える道徳」につながる内容構成について、自分ごととして主体的に考え、自分の考えを記述する欄『つぶやき』が、各教材の下部に設定されている。第1学年『探究の対話「p4c」』や、第2学年『不安な気持ちを整えてみよう』など、各学年に活動を取り入れた教材が設定されている。
教出	「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『学びの道しるべ』には立場を置き換え、視点を変えて考えさせる発問が示されている。各学年、話し合いなど、多面的・多角的に考える『やってみよう』という項目が設定されている。
光村	「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』では、教材で学んだ内容を、視点や立場を変えて振り返る発問や、考え方のヒントが、『見方を変えて』『つなげよう』というコーナーに設けられている。
日文	「考える道徳」につながる内容構成について、考え、議論する道徳や、対話的・協働的な学びにつながる『学習の進め方』や『学習を深めるヒント』が設けられている。また、自分との関わりの中で、主体的に考える『考えてみよう』『自分に+1』という場面が設定されている。
学研	「考える道徳」につながる内容構成について、自分との関わりの中で、主体的に考える『深めよう』には『見つけよう』『考えよう』『生き方につなげよう』などのコーナーが設けられている。
廣あかつき	「考える道徳」につながる内容構成について、教材末に、課題解決に向け発問を手がかりとして自らが考える『考える・話し合う』が設定されている。また、学んだ内容を広める『thinking』では、前の教材で学習した内容をもとにした、実話や詩が掲載されている。
日科	「考える道徳」につながる内容構成について、各学年の発達段階に応じて、答えが1つではない道徳的な課題を、生徒一人ひとりが自分自身の問題として、3年間をとおして考える教材が各学年に配置されている。『リョウとマキ』は学年間でつながる生徒の日常が描かれている。

⑰ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
東書	「議論する道徳」につながる内容構成について、議論をとおして多面的・多角的な考え方にふれる教材『傍観者でいいのか』、『三つのいのちについて考える』や、『ACTION!』『PLUS+』などのコーナーに議論する場が設定されている。
教出	「議論する道徳」につながる内容構成について、オリエンテーション『道徳科で学びを深めるために』では、考えを出し、話し合う中で、議論を深めていく発問や、授業の流れ、授業の様子がイラストなどで示されている。
光村	「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』の下に、多面的・多角的に考え、他者の視点に立つコーナー『見方を変えて』が設けられている。また、『つなげよう』では以前学んだページなどを振り返り、多面的・多角的に考える発問が掲載されている。
日文	「議論する道徳」につながる内容構成について、多面的・多角的な視点で考え、議論を行う際に、友達の意見や話し合いの内容をメモする欄が別冊『道徳ノート』に設けられている。また、各学年とも、自分ごととして考えを深めていく『考えてみよう』『自分に+1』などが設定されている。
学研	「議論する道徳」につながる内容構成について、別の視点から、自分の考えを振り返るコーナー『クローズアップ』が設けられている。教材末『深めよう』では、『話し合おう』『生き方につなげよう』など、話し合うことで異なる考え方に会えるコーナーが設定されている。
廣あかつき	「議論する道徳」につながる内容構成について、議論につながる発問が、『考えを広げる・深める』に設けられている。議論した内容を広げるコーナー『thinking』が設けられている。話し合いをとおして、多面的・多角的な考え方を交流する問いが、別冊『道徳ノート』に設けられている。
日科	「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末に、自分の考えを持ち、意見交換をし、多様な価値観と出会う『考え、話し合ってみよう』そして、『深めよう』のコーナーが設置されている。第1学年『プロレスごっこ』など、答えを1つに絞ることができない日常的なテーマを扱った教材が配置されている。
⑱ 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	道徳的行為に関する体験的な学習について、『もし、あのときにもどれるならば』など、各学年で、教材の一場面を役割演技するなど、体験的な学習を取り上げる、『ACTION!』が設定されている。また、2時間扱いで考える問題解決的な学習が設定されている。
教出	道徳的行為に関する体験的な学習について、役割演技や日常の体験を想起して話し合う活動を取り入れ、考えたことをさらに深める教材が設けられている。『やってみよう』など登場人物等の立場になって考えたり、役割演技したりする活動が設けられている。
光村	道徳的行為に関する体験的な学習について、生徒が役割演技をすることで、別の視点から教材を振り返る『見方を変えて』が、各学年の『考えよう』のコーナーの中で取り上げられている。第1学年では『考えよう 相手のことを考えて行動するとき大切なのは、どんなことだろう』が設けられている。
日文	道徳的行為に関する体験的な学習について、第1学年『近くにいた友』など、体験的な学習教材が『学習の進め方』に設定されている。中学生の発達段階に合った体験学習が示されている。また、活動例の写真を提示し、生徒の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示している。
学研	道徳的行為に関する体験的な学習について、問題解決的な学習で考えを深める『深めよう』のコーナーが設けられている。また、第1学年『二つの心の対話を演じてみよう』など、教材の内容をもとに、役割演技をする『やってみよう』のコーナーが設けられている。
廣あかつき	道徳的行為に関する体験的な学習について、体験的な学習をとおして、道徳的価値について自らの考えを振り返る、役割演技や動作化などの活動が、教材末『考える・話し合おう』に設けられている。第1学年『島 耕作 ある朝の出来事』などで役割演技が設けられている。
日科	道徳的行為に関する体験的な学習について、教材に関係のある日常生活での体験を振り返り、自らの考えを振り返る『考え、話し合ってみよう』そして、『深めよう』が教材末に設けられている。第1学年『私のいいところはどこ』など、互いの意見を認め合う体験的な学習が設けられている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	22の内容項目を含む、28の主たる教材が配置されている。
教出	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
光村	22の内容項目を含む、31の主たる教材が配置されている。
日文	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
学研	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
廣あか つき	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
日科	22の内容項目を含む、37の主たる教材が配置されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
教出	判型はB 5判が採用されている。
光村	判型はB 5判が採用されている。
日文	判型はB 5判が採用されている。
学研	判型はA B判が採用されている。
廣あか つき	判型はA B判が採用されている。
日科	判型はB 5判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『教科書本文等には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。
日文	『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
学研	『この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、ユニバーサルデザインに配慮して製作しています。』と表記されている。
廣あか つき	『この教科書は、色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。』と表記されている。
日科	編修趣意書には、『生徒が学びやすく、先生が教えやすい紙面を目指して編集を行いました。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	2年 15ページ 横浜市戸塚区の団地（横浜市） 2年 102ページ 航路図（横浜） 2年 107ページ 杉原千畝のお墓（鎌倉市） 3年 96ページ 神奈川県道徳授業研究会 3年 189ページ パティシエの紹介（神奈川県） 3年 190ページ 相模人形芝居（神奈川県）
教出	1年 91ページ 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 1年 201ページ 二宮尊徳（神奈川県） 2年 185ページ 小柴昌俊（神奈川県） 3年 185ページ 吉川英治（神奈川県）
光村	1年 178ページ 箱根寄せ木細工 2年 166ページ 箱根駅伝に挑む 3年 36ページ 神奈川県厚木市立睦合東中学校の取組 3年 106ページ 横浜ベイブリッジの写真
日文	1年 81ページ 神奈川県道徳授業研究会 2年 138ページ 二宮尊徳（小田原市）
学研	2年 44ページ ヨコスカネイビーパーカー（横須賀市） 2年 75ページ 読売ジャイアンツ寮（川崎市） 2年 123ページ 真鶴半島（神奈川県） 2年 145ページ 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏
廣あかつき	2年 96ページ 路上に散った正義感（横浜市）
日科	3年 184ページ 二宮尊徳（小田原市） 3年 裏表紙 江の島と江ノ島電鉄の風景写真、鶴岡八幡宮のぼんぼり祭

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名	1年	1年 ノート	2年	2年 ノート	3年	3年 ノート
東書	有	有	有	有	有	有
教出	有	有	有	有	有	有
光村	有	有	有	有	有	有
日文	有	無	有	無	有	無
学研	有	有	有	有	有	有
廣あかつき	有	無	有	無	有	無
日科	無	無	無	無	無	無

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	総冊数	1年	1年 ノート	2年	2年 ノート	3年	3年 ノート
東書	3	386	401	400			
教出	3	384	358	357			
光村	3	333	344	348			
日文	6	339	85	337	84	338	85
学研	3	356	377	379			
廣あかつき	6	374	116	345	115	338	116
日科	3	335	332	334			